

令和3年7月23日

日本学術会議会長 殿

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会  
委員長 \_\_\_\_\_

## 日本学術会議主催学術フォーラム企画案募集について（回答）

令和3年6月14日付府日学第930号をもって依頼のありました標記について、下記のとおり回答します。

## 記

- 1 フォーラムのテーマ 我が国の学術政策と研究力に関する学術フォーラム  
— なぜ我が国の研究力は後退したのか？ —（仮題）

## 2 企画趣旨

今世紀に入ってから、日本の学術の国際競争力の後退が顕著に表れている。特に理学工学系や生命科学分野に代表される自然科学分野においては、基礎科学だけでなくその応用技術分野においても顕著である。このことは当該分野の出版総論文数やトップ1%論文数も低迷しており、ほとんどの統計的指標が我が国の学術・研究力の後退を示している。一方、我が国では1990年代初頭から、国立大学の大学院重点化や法人化など、教育研究機関の「改革」が次々に実施されるとともに、CSTIの創設をはじめとする科学技術の振興に関わる政策も大きく変化した。これまで科学技術立国を目指すための様々な政策が実施されてきたにもかかわらず、この凋落傾向は改善されないばかりか、むしろ近年は加速傾向にある。この深刻な学術・研究力の後退の問題について、これまで専門家や批評家、各省庁や関係機関から様々な解析や要因の指摘などが表出されてきた。日本学術会議においては、期を超えて長期的にこの原因について科学的に探ることを目的として、「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」が発足した。これを受けて委員会のキックオフ活動として、これまでの議論を総括するとともに専門家の意見を交換するための

学術フォーラムを開催し、日本学術会議の新たな活動を周知させるとともに広く議論の活性化を目指す。また、並行して実施する予定の会員・連携会員からの意見聴取のためのアンケート調査に資する情報提供を行う。

3 希望開催時期 2021年10月2日(土)または3日(日)

4 コーディネーター 山口 周

5 演題・演者等（予定、交渉中のものも含む。）

学術の競争力に係る以下の課題について

午前の部

1. 挨拶 梶田会長（または菱田副会長）（予定）
2. 本日のフォーラムの狙いについて（菱田副会長/山口）
3. セッション1：研究力後退の実情（データから見る我が国の研究力の推移）
  - (1) 伊神正貫(NISTEP)
  - (2) 文部科学省/内閣府/JST 他省庁・関係機関からの情報提供 1-2 件

午後の部

4. セッション2：研究力後退の要因は何かを探る

学術の競争力に係る関連出版物の著者の招待講演 3-5 件

候補者：

- (1) 豊田長康：「科学立国の危機」
- (2) 岩本宣明：「科学者が消える ノーベル賞が取れなくなる日本」
- (3) 藤村正司：「なぜ研究生産性が失速したのか —大学教員の現在—」
- (4) 林 隆之：「日本の研究パフォーマンスと研究実施構造の変遷」, 「大学の研究促進施策・環境が研究生産性に及ぼす効果に関する行動科学的分析」
- (5) 山口栄一：「イノベーションはなぜ途絶えたか —科学立国日本の危機」
- (6) 毎日新聞：「誰が科学を殺すのか 科学技術立国「崩壊」の衝撃」
- (7) その他適切な講演者

5. セッション3：パネルディスカッション

セッション1, 2 講演者 + 委員（梶田先生）、その他の候補者によるパネルディスカッション（議論する項目を予め絞り、それぞれの意見を交換する）

6. 総括：今後の活動について+アンケート実施に関する協力依頼(山口)

6 その他希望事項（開催場所等）開催場所 日本学術会議講堂またはハイブリッド

- 注) 1 企画案の提出に当たっては、上記 1～6 の項目をできるだけ詳細に記入してください。特に講演を企画するに至った企画趣旨は必ず記入してください。  
記入漏れのある場合は、書類不備扱いとなり、審議されない場合があります。
- 2 演題・演者が未定の場合には、分野だけでも記入してください。